

## 株式会社藤里開発公社の令和2年度上半期経営状況について

株式会社藤里開発公社の令和2年度上期（4～9月）の経営状況について、12月定例議会で報告しましたので公表します。

令和2年度上半期において、藤里開発公社は定期的な部門長会議を中心に位置づけ、営業方針の企画策定や業務改善、経費の削減を実施してきました。全体の売上高では、前年比66.5%、48,222千円の減となりました。

減収の主な要因は、新型コロナウイルスの感染拡大による秋田県の営業自粛要請に対応した休業措置と首都圏の県外自粛によるホテルの相次ぐ予約キャンセル、白神山水では外出自粛による自販機利用の減から大口取引先や小口取引先からの受注が減少したことによるものです。

売上原価は、各部門長との会議において、改善すべき点の改善と経費の削減や棚卸在庫の無駄をなくすことを徹底し、今年度上半期全体では、20,713千円と昨年対比で62.5%、12,422千円の減となりました。

また、全体の販売費及び一般管理費は、95,812千円で、昨年対比で83.7%、18,725千円の減になりました。町補助金を含めた経常利益は、7,407千円となり、昨年対比で84.5%、1,361千円の減となりました。

下半期においては、引き続き赤字圧縮を目指し、更なる改善と営業に努力していきたいと考えております。

### 令和2年度上半期決算状況

(単位：千円)

科 目	R 2実績	R 1実績	比 較
売 上 高	70,331	110,110	△39,779
加 工 手 数 料	6,183	4,854	1,329
指 定 管 理 料	19,345	29,117	△9,772
総 売 上 高	95,859	144,081	△48,222
売 上 原 価	20,713	33,135	△12,422
売 上 総 利 益	75,146	110,946	△35,800
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	95,812	114,537	△18,725
営 業 損 益	△20,666	△3,591	△17,075
営 業 外 収 益	30,052	13,902	16,150
営 業 外 費 用	1,979	1,543	436
上 半 期 純 損 益	7,407	8,768	△1,361

主な事業、実績概要につきましては、以下のとおりです。

#### ●ホテル部門

新型コロナウイルスの影響で4月から6月までは特に利用者が少なく大きく売上を落とす結果となりました。

下半期については、各種キャンペーンの効果も出てきておりますので、予約状況に合わせた仕入れや、無駄のない勤務シフトの作成等で経費削減に努めながら、冬季の販売商品の早期PR（おせち料理・忘新年会プランなど）を実施するなどして集客を図りたいと考えております。

#### ●健康保養館

ホテル同様、新型コロナウイルスの影響は保養館においても顕著で、4月から6月と8月は大きく利用が落ち込みました。

唯一の明るい兆しは、宿泊者向けの各種キャンペーンのおかげで、ホテルからの利用が多くなってきたことが挙げられます。

下半期においても厳しい営業が続くと予想されますが、イベントの実施（ゆず湯など）や冬季限定のホテルとの共同プランの販売などで集客を図りたいと考えています。

#### ●加工センター

「皮むき事業」や「ヨモギの加工」が増収となりました。

「白神ラム」に関しては、生産頭数に限りがあるため、また新型コロナウイルスの影響により売上高は頭打ちとなっておりますが、「白神ラム」というブランドをより一層向上させていきたいと考えております。

#### ●水生産販売部門

前期対比減になった最大な原因は、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛に伴う消費の落ち込みであります。8月中旬から9月の猛暑により、回復傾向も見られました。

その中で、新規の取り引きも決定しておりますので、さらなる回復を目指して取り組んでまいります。

下半期では、新規取引先の確保と一般管理費の圧縮及び資材ロスの管理を徹底し、売上の増進を目指して努力してまいります。